スマート“な”ホームシアター宣言!

Text:Ryosuke Kakinuma
Photo:Toshikazu Aizawa

スマートフォンにスマートテレビ、さらにはスマートハウス。時代はスマートな生活を求めているらしい。これらの言葉はホームシアターシーンにも無関係ではないはず。機器の操作にはスマートフォンを使い、テレビをディスプレイにして映画を観るかもしれないのだから。それでは、シアターがスマート化したらどうなる？　すでに現実のものとして享受できるスマートな暮らしは手を伸ばせば届くところにある

P60 スマートなオーディオ&ビジュアルスタイル

P66 スマートなAVライフ 実践編 feat.トムテック

「スマート～」とは最新のデジタルデバイスや未来的なメディアを呼ぶときの枕言葉のようにもなっている。しかし、ここまで広く使われる言葉にも関わらず、その実体をつかんでいないのではないだろうか。スマートフォンはiPhoneやアンドロイド携帯のこと。それはなんとなく理解できても「スマートテレビ」っていったいぜんたい何者なの？　ホームシアターもスマートになるの？　その疑問に答えてくれたのは慶応義塾大学教授でスマートテレビ研究会代表の中村伊知哉さん。

「スマートテレビの具体的な定義はまだできないんですよ。20年ほど前に『マルチメディア』という言葉が話題になったのを覚えているでしょうか。これからはデジタル技術で新しいメディアがたくさん出てくるぞ、という期待感で『マルチメディア……』と念仏のように唱えていたんです。それから1、2年経ってからパソコンやインターネットが普及したときに『これがマルチメディアだ』って後づけで言ったわけです。『スマートテレビ』もそれに似ています。テレビ、パソコン、携帯の次、第4のメディアとして何かが登場するぞ……と、それはスマートフォンやタブレット端末、あるいはデジタルサイネージ（電子看板）であったりするわけですが……さらに、それをテレビ側から捉え直した言葉が『スマートテレビ』というわけですね」

――スマートテレビとは念仏のようなもの……　それを構成する要素には何が挙げられるのでしょうか。

「マルチスクリーン（複数のディスプレイを用いての視聴）、クラウド、ソーシャルネットワークサービス、それらをテレビとして取り込んだものが『スマートテレビ』なんだけれど、全部が必要というわけではありません。テレビとインターネットが結合してVODを観られることが『スマート』かもしれないし、スマートフォンでテレビの番組が視聴できるのが『スマート』だと思う人もいるでしょう。これから、必ずオーディオ&ビジュアルのメディアは進化しますよね。その進化した先のものをとりあえず『スマートテレビ』とみんなで呼ぶことになっていきました。スマートテレビであればネットワークやソーシャルサービスにつながることで、家の中にいながらヴァーチャル空間上の友人や、コンテンツを共有している人間とつながる。そこには、まったく別の新しいコミュニティができるんです。もちろん、同じ家の中でもつながりますよね」

――その体験が「スマート」だとすると、スマートなシアターとはどういったものになるのでしょうか。

「やはり、同じコンテンツを観ている人たちとつながる、というソーシャル要素における変化が本質でしょう。映画作品や俳優の情報をタブレット端末ですぐに探したり、視聴後に感想を共有できる。大画面、高精細で観る作品を大事にするユーザーは、特に思い入れが強い方だと言えるはずですよね。今まで、その思い入れを交歓する手段が少なかったけれど、それができる。そこに『スマート』の価値が見出せるのではないでしょうか。何も思い入れのない、言ってみれば普通の人たちよりも、そういったコア層にこそ使い勝手のいいメディアになるんだと思いますよ」

――なるほど、コアユーザーの貴重な情報は一般ユーザーの有益情報にもなりそうです。ただし、そこに能動性が求められますよね。何をせずともいい、受動的でいられることが「スマート」ではないのでしょうか。

「今まで受動的と捉えられていたテレビ視聴ですけれど、前提としてテレビ局の編成に対して信頼があって、彼らからそれを受け取っていたわけです。無意識に彼らを選んでいた。これからはその相手が違うだけですよ。誰を信頼して情報やコンテンツを受け取るか。それがソーシャルサービス上で行なわれるわけです。例えば、信頼する友人の『アイツ』が録画しているものはすべて録画しておく、とかね。確かに、そこだけは能動的に選ぶ必要があります。ただし、若い世代に目を向ければ『アイツ』は自然と決っていますよ。僕らのような新聞とテレビで育ってきた世代が急に『スマートになれ』って言われると『能動的にならざるを得ない』とか言っちゃうんだけど、若い人はそんなことありませんよ（笑）」

――時代の流れとともにあるスマート化はもはや必然だと。では、若い世代でない人たちもスマートになれるでしょうか？

「若い世代の感覚は自分には絶対わからないんですよ。『教えてください』って姿勢が大切。相手はプロでこちらはアマチュア。子どもの方が得意なことなんてこともたくさんありますよね」

いずれにせよ、インターネットに、はたまたソーシャルサービスにつながることがまずはスマートへの道のよう。その前提としてワイヤレスでのスムーズな機器間の接続も考えられる。そのようなホームシアターを、現実的なものとしてスマート“な”シアターと呼ぶことにしよう。家の中だけでなく、外にも広がるホームシアター、楽しいものになりそうでしょうか、中村さん？

「この雑誌に出ている人たちは、すでに楽しそうですよね。まったくうらやましい！（笑）　こういう人たちこそ、スマートにつながって、もっと楽しむことができると思いますよ」

「スマート」とは新しい茶の間の創出である

「僕は、スマートテレビとは『新しい茶の間』を創ることだと思っているんです。もともと、テレビというのはコミュニケーションの道具でしたよね。茶の間に置かれていて、家族みんなで番組を共有してワーワー言う。それが多様化して、寝室や書斎にテレビが置かれることで家族がバラバラになっていきました。スマートテレビであればネットワークやソーシャルサービスにつながることで、家の中にいながらヴァーチャル空間上の友人や、コンテンツを共有している人間とつながる。そこには、まったく別の新しいコミュニティができるんです。もちろん、同じ家の中でもつながりますよね」

――それでは、その混沌とした「何か」がもたらすものとは？

Profile

中村 伊知哉
なかむら いちや●1961年生れ。慶應義塾大学メディアデザイン研究科教授、スマートテレビ研究会代表。ロックバンド「少年ナイフ」ディレクター、郵政省、MITメディアラボ客員教授、スタンフォード大学日本センター研究所長を経て慶應義塾大学へ。スペースシャワーネットワーク社外取締役、沖縄国際映画祭スーパーバイザーなどなど、音楽・映画に関する活動も行なう
http://www.ichiya.org/

Home Theater
2012 Summer vol.58